

平成30年度

府中市地域包括支援センター業務チェック 実施報告書

1	実施概要	1
2	実施結果	
	府中市地域包括支援センター泉苑	2
	府中市地域包括支援センターよつや苑	4
	府中市地域包括支援センターあさひ苑	6
	府中市地域包括支援センター安立園	8
	府中市地域包括支援センターしみずがおか	10
	府中市地域包括支援センターかたまち	12
	府中市地域包括支援センターしんまち	14
	府中市地域包括支援センター緑苑	16
	府中市地域包括支援センターにしふ	18
	府中市地域包括支援センターこれまさ	20
	府中市地域包括支援センターみなみ町	22

1 実施概要

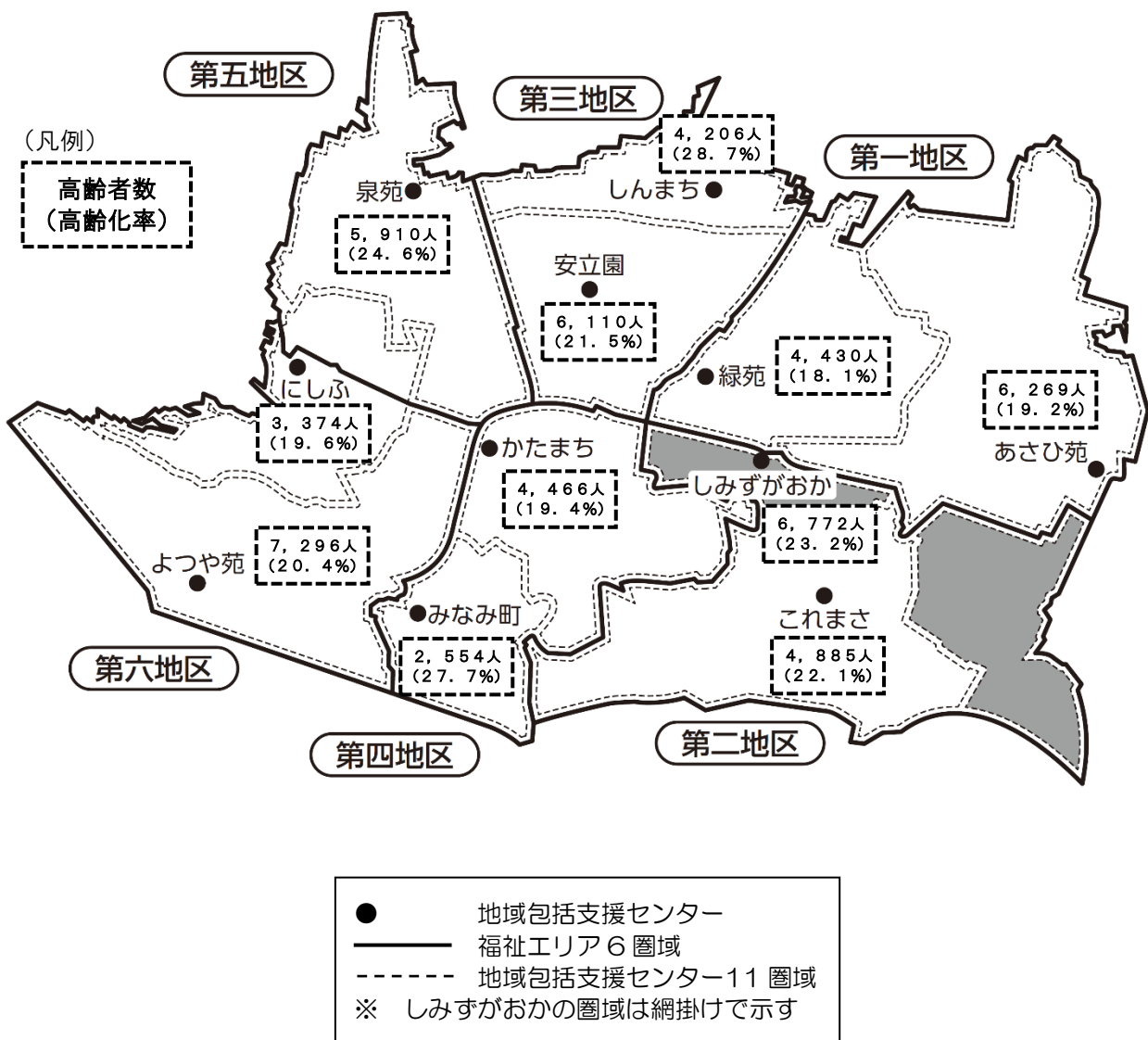
○目的 地域包括支援センター自らがその取組を振り返るとともに、市がセンターの運営や活動に対する点検や評価を実施し、その結果を踏まえて、センターと市が事業の質の向上のための必要な改善を図っていくことを目的とする。

○方法 市が各地域包括支援センターを訪問し、地域包括支援センターが作成した業務チェックシート等を踏まえてヒアリングを実施する。その結果について、地域包括支援センターごとによく取り組んでいる業務や今後取組が期待される業務をまとめ、府中市地域包括支援センター運営協議会に報告する。

【対象業務等】

- ・ 地域包括支援センターの体制・組織運営等
- ・ 総合相談支援業務
- ・ 権利擁護業務
- ・ 在宅医療・介護連携推進事業
- ・ 認知症総合支援事業
- ・ 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務
- ・ 地域包括支援ネットワーク構築等
- ・ 介護予防支援・介護予防ケアマネジメント
- ・ 介護予防事業

○対象 府中市地域包括支援センター11か所



(出典) 府中市「府中市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画(第7期)」より改変

2 実施結果

府中市地域包括支援センター 泉苑

■基本情報(平成30年10月1日現在)

担当地区	北山町、武蔵台、東芝町、日鋼町、美好町(1・2丁目)、西原町													
人口	23,997人	高齢者数	5,910人	高齢化率	24.6%									
自治会数	59団体			シニアクラブ数				8団体						
介護保険事業者延数														
居宅介護支援	訪問介護	訪問入浴介護	訪問看護	訪問リハビリテーション	通所介護	通所リハビリテーション	短期入所生活介護	短期入所療養介護	特定福祉用具貸与	特定福祉用具販売	認知症対応型通所介護	小規模多機能型居宅介護	介護老人福祉施設	介護老人保健施設
3	2	1	3	0	9	0	1	0	1	1	1	0	1	0

■地域特性

<p>【全体】</p> <p>市の西北部に位置し、国分寺市・国立市に隣接している。古くからの住宅が立ち並び、高齢化率が30%を超える市内1・2位の町と最も高齢化率が低い町を含む地域を担当しているため、地域特性が異なり、個別の地域アプローチが必要と考える。</p>
<p>【北山町】</p> <p>都営住宅が多く、高齢化率は市内で2番目に高い。古くからの商店は閉店し、コンビニエンスストアが足の不自由な高齢者にとって唯一の買い物の場所となっている。住民主体でサロン活動が立ち上がり、高齢者の見守りの意識が高い。</p>
<p>【武蔵台】</p> <p>1丁目と2・3丁目では、立地高低差があり高齢者にとっては行き来が大変との声が多く聞かれる。2・3丁目は市街地へ出向くことが困難なため、市の情報や活動が浸透しにくい。都営住宅が多く、特別養護老人ホーム、大きな病院がある。</p>
<p>【東芝町】</p> <p>約15年前に建てられた巨大高層マンション。マンション内の活動は盛ん。防災センターと理事会・自治会・民生委員との連携が図れており、住民の状況の把握に努めている。南側に100世帯ほどのマンションが新たに立っているが、高齢者は少ない。両マンションの交流も少ない。東芝工場南側の僅かな戸建住居群を合しても、市内で高齢化率が1番低い。</p>
<p>【日鋼町】</p> <p>全32棟からなる築50年を超える団地からなる。すべて4～5階建てだがエレベーターがないため足が不自由な高齢者は外出困難となる。市内で最も高齢化率が高い。空き部屋も増えてきている。建て替え問題で賛成・反対の意見が交錯しているが、住民間の見守りの意識は高く、独自でサロン等見守り活動を積極的に行っている。</p>
<p>【美好町(1・2丁目)】</p> <p>戸建住居に住む昔からの住民も多いが、高齢者が多く住む都営住宅もある。2丁目の新築住宅に若い世代が移り住んだこともあり、担当の町の中でも珍しく人口が増えている。センターとの間に広大な敷地の東芝工場を挟み分断されていることから、担当エリア内の中でも周知度が低かったが、徐々に存在が浸透しつつあると感じる。</p>
<p>【西原町】</p> <p>古くからの戸建住居群が立ち並ぶが、道路拡張工事の影響で人口が減少。住民自治組織として古くから見守りネットワーク活動を市内でも先駆的に行っており、20年以上の歴史があるも、役員の高齢化への課題がある。</p>

■人員配置 ※資格:主なものに◎、それ以外のものに○

職員		常勤								非常勤					
		長	2	3	4	5	6	7	8	1	2				
										0.8	0.5				
資格	保健師(看護師を含む)				◎										
	社会福祉士	○	◎			○	◎			○					
	主任介護支援専門員	◎				◎									
	介護支援専門員	○	○		○	○	○	◎	◎	◎					
	その他			◎											

■ヒアリング結果

○よく取り組んでいる点、改善された点等

<p>(地域包括支援センターの体制・組織運営等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報の共有化について、ミーティングや申し送りを徹底することで、担当以外でも対応できるよう取り組んでいる。また、専門職に意見を聞くなど、専門性が損なわれないよう配慮されている。
<p>(総合相談支援業務)</p> <ul style="list-style-type: none"> 訪問や安否確認を土・日・祝日にも行っている。 様々な問題を抱えているケース対応が多くなっている。センター内で情報を共有し、誰でも対応できるように、また主担当で抱えるのではなく、複数人で対応するようにしている。
<p>(在宅医療・介護連携推進事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> 昨年度に引き続き、介護予防講座や家族介護者教室の中で、在宅療養や医療について取り上げ、一般市民への普及啓発に努めている。 ケアマネサロンでも訪問診療を取り上げ、介護職に向けての医療連携の発信を行っている。
<p>(介護予防支援・介護予防ケアマネジメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎週金曜日にミーティングを行って制度や地域の社会資源の最新情報が共有できている。 担当エリア内に居宅事業所がないため、市内にとどまらず市外へ連携を広めている。

○改善が必要な点、今後期待される取組等

<p>(総合相談支援業務)</p> <ul style="list-style-type: none"> より住民のニーズに答えるため、自治会の総会等に足を運び、高齢者福祉・成年後見制度などの啓発をお願いしたい。
<p>(在宅医療・介護連携推進事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> 医療との連携事例報告書において、今年度は、昨年に比べ報告件数が激減した。センター内で報告事例を医療との連携が難しかった事例に絞るようになったためとのことであったが、今後に関しては、好事例や他機関へ伝えたい事例等に関しても、報告をお願いしたい。
<p>(包括的・継続的ケアマネジメント支援業務)</p> <ul style="list-style-type: none"> 企業との関係性が薄いので、市とともに協力関係を構築してほしい。
<p>(介護予防事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域によって高齢化が進んでいるので、地域を支える担い手になる人材が不足しているため、ボランティア育成が課題。今後も多世代交流や若い世代へのアプローチを引き続きお願いしたい。

府中市地域包括支援センター よつや苑

■基本情報(平成30年10月1日現在)

担当地区	分梅町、住吉町、四谷、美好町(3丁目)														
人口	35,754人	高齢者数	7,296人	高齢化率	20.4%										
自治会数	29団体			シニアクラブ数				13団体							
介護保険事業者延数															
居宅介護支援	訪問介護	訪問入浴介護	訪問看護	訪問リハビリテーション	通所介護	通所リハビリテーション	短期入所生活介護	短期入所療養介護	特定福祉用具貸与	特定福祉用具販売	特定福祉用具	認知症対応型通所介護	小規模多機能型居宅介護	介護老人福祉施設	介護老人保健施設
8	7	0	2	0	7	1	1	1	1	1	2	1	1	1	

■地域特性

【分梅町】

分倍河原駅近くには商業施設があり活気があるが、少し離れると商店や医療機関が少なく、交通の便にも課題がある。自治会の連合会があり、青年会と連携して神社のお祭り等を開催している。都営住宅・市営住宅では高齢化が進む。1丁目の介護予防推進センターが地域の貴重な集いの場になっている。高齢化率21.5%。

【住吉町】

中河原駅周辺はスーパーや商店が集まるが、交通量の多い道路で分断されているため、高齢者にとって行き来し難い面がある。医療機関は救急病院から開業医まで比較的多く立地しており、日頃から医療機関との連携が図れている。また多摩川土手沿いには大型マンション群が立地しており、防災意識が高い地域である。高齢化率20.4%。

【四谷】

中河原駅近くから国立市境まで範囲が広く、1・2丁目は新旧住宅や農家が混在し昔ながらの地域関係も残っている。3丁目は40年程前に分譲した住宅地が多く、高齢化が進み空き家が増加する一方で建て替えて建売住宅も増えており、若い世代が転入している。4～6丁目は農家や市営住宅、また新しい高層の分譲マンションも増えているが、高齢者にとっては買い物や医療機関の利便性に課題がある。多摩川沿いであり、住吉町と同じく防災意識が高い。高齢化率20.8%。

【美好町(3丁目)】

旧甲州街道を挟み農家を中心に発展した北西部と、企業進出で宅地化の進んだ南西部にそれぞれ自治会・老人会がある。分倍河原駅近くはアパートやマンションも多く若い世代も多いためか、高齢化率が他地区よりは低い。センターから遠い地区のため、相談窓口としてセンターの認知度を向上することが課題となっている。高齢化率17.2%。

■人員配置 ※資格:主なものに◎、それ以外のものに○

職員	常勤							非常勤						
	長	2	3	4	5	6	7							
資格	保健師(看護師を含む)			◎										
	社会福祉士		◎											
	主任介護支援専門員	◎												
	介護支援専門員		○		◎	◎	◎	◎						
	その他	○	○		○	○	○	○						

■ヒアリング結果

○よく取り組んでいる点、改善された点等

(総合相談支援業務、権利擁護業務)
・今年度より毎朝ミーティングを行い、形式的な各担当の予定の確認だけでなく、対応内容の共有や担当職員の調整等も含め、十分にケースの検討や共有がなされている。
・虐待対応については、虐待かどうかの判断に迷うケースも含めて市に報告、相談を行っている。また、センター内でカンファレンスを行い、各職種の専門性を生かして、緊急性の判断や対応の検討が組織的に行われている。
(在宅医療・介護連携推進事業)
・全職員が在宅療養の相談にあたっているが、毎朝のミーティングやシステムなどを活用し、主担当者が不在でもケース対応ができるよう体制を整えている。また、医療職が中心となって見立てを行うことで、支援内容に漏れがないかなどのチェック機能を働かせている。
・医療機関や支援対象者の理解不足など支援に支障が生じる状況であっても細やかに対応し、必要な支援を提供できている。
(包括的・継続的ケアマネジメント支援業務)
・ケアマネサロンについては、毎月事例検討会形式で実施しており、経験年数の浅いケアマネジャーの事例提供など、事務所を超えたアドバイスが受けられる場となっている。また、他センターと合同でケアマネサロンを実施し、「み～な」との情報交換会を実施し、ケアマネジャーと関係機関とのネットワークの構築に努めている。
(介護予防支援・介護予防ケアマネジメント)
・主任ケアマネジャーを中心に、「職員個人のケアプランではなく、センター全体で担当するケアプランである」という意識のもと、目標設定や支援内容がよいケアプランの職員間での共有や、リハビリテーション職の視点を生かしたケアプラン検討会を行うなど、ケアマネジメントの質の向上に取り組んでいる。

○改善が必要な点、今後期待される取組等

(総合相談支援業務、権利擁護業務)
・身寄りがなく、金銭的な課題を抱えているケースや、セルフ・ネグレクトのケースの対応について、支援の手立てを探すことや、他機関との連携に苦慮していることが伺えた。引き続き幅広い内容の研修を受講することで、障害や制度に対する理解を深めるとともに、事例検討会等の機会を活用し、関係機関との顔の見える関係づくりを進めていただきたい。
(在宅医療・介護連携推進事業)
・全職員が在宅療養の相談にあたっているなかで、病院とのやりとりが苦手な職員がいるとのことだったので、苦手意識をなくし、スムーズな連携ができるよう改善への取組を期待する。
(地域包括支援ネットワーク構築等)
・家族介護者教室について、今後活用される機会となるようこの事業のあり方について市とともに検討していただければいい。
(介護予防事業)
・様々取り組んでいただいているが、介護予防事業の展開が薄いエリアについて、引き続き事業の充実に向けて取り組んでいただき、活発なエリアとそうではないエリアが生じないように努めていただきたい。

府中市地域包括支援センター あさひ苑

■基本情報(平成30年10月1日現在)

担当地区	多磨町、朝日町、紅葉丘、若松町(1丁目)、白糸台(1～3丁目)、														
人口	32,620人	高齢者数	6,269人	高齢化率	19.2%										
自治会数	17団体			シニアクラブ数	7団体										
介護保険事業者延数															
居宅介護支援	訪問介護	訪問入浴介護	訪問看護	訪問リハビリテーション	通所介護	通所リハビリテーション	短期入所生活介護	短期入所療養介護	特定福祉用具貸与	特定福祉用具販売	特定福祉用具	認知症対応型通所介護	小規模多機能型居宅介護	介護老人福祉施設	介護老人保健施設
7	8	0	2	0	3	0	1	0	0	0	1	0	1	0	

■地域特性

【全体】

市の東北部に位置し、小金井市・調布市・三鷹市に隣接しており高齢化率は19.2%である。市中心部へは自転車を利用するか、ちゅうバスを利用する方が多い。多磨町・紅葉丘には医療機関が少ない(紅葉丘に1か所)ことと、スーパーから離れていて買い物に不便している地域もある。戸建て住宅が中心で、最近空き地や農地に新築住宅ができてきている。

【多磨町】

独自の高齢者見守りネットワークを構築していて、1町会でまとまりがある。町会では毎年敬老会を10月に実施しており、50年以上長く継続されており、75歳以上の方たちのほとんどを把握されている。老人会も様々な活動を行っていて、加入者は活発に活動に取り組んでいる。地域密着の寺を会場とした「多磨町サロン」はすっかりセンターの手を離れ後方支援としての役割となり、地域住民主体のサロンと変貌している。ただし、町会や老人会に加入しない方が増えてきており課題となっている。買い物については、多磨駅周辺に小さい商店があるが、買い物難民への支援も課題だった。府中市社会福祉協議会が推進するわがまち支えあい協議会の活動で買い物支援事業が開始された。

【朝日町】

戸建て住宅が多く長年住んでいる高齢者に関しては、民生委員が大多数を把握している。東京外語大学があることで、古いアパートは建て替えられ、ワンルーム形式のアパートが増えた。2つある大規模なオートロックのマンションに住む高齢者はあまり把握が進んでいないのが課題。グラウンド跡地の新興住宅地「ときの杜」は一昨年より特に力を入れ、自治会役員が加入へのアプローチを地道に行い、少しずつ効果が表れている。長年地域の公園で行っている夏祭りは、地域交流の場としての効果が大きい。夏祭りは自治会が結束し、ボランティアの協力を得て、子どもから高齢者まで異世代交流の場となっており、毎年多くの地域住民や学校の教員も集まる。センター職員も担い手として参加し交流を図っている。老人会は解散したままで、集まる機会がないとの声も出ている。

【紅葉丘】

1～3丁目の自治会、都営住宅の自治会がある。紅葉丘3丁目町会は、民生委員を中心に、自治会で交流サロンを月2回紅葉丘公会堂で行っている。資源回収の取組や運動会の開催、町会だよりの発行、敬老の祝いの会開催等、地域に還元できる仕組みづくりをしている。一昨年より始まった子ども食堂も継続されている。1丁目町会は、今年度東京都の補助事業である地域の底力再生事業を活用し第二中学校を会場に新たな試みとして地域祭が開催された。2丁目もサロンが定期的に行われている。

【若松町(1丁目)】

1丁目の高齢化率は低い、40歳から74歳までの人口比が多い。マンションが多く、近隣との交流が希薄で、実態把握が難しいと自治会からの声もあるため、今後孤立の問題を抱えた世帯の相談ケースが増えていく可能性がある。特に若い世代に対する介護予防啓発等や多世代に渡る見守りネットワークの周知などを強化していく必要がある。

担当エリア全体で府中第四小学校、府中第十小学校、白糸台小学校、府中第二中学校での認知症サポーター養成講座が定着してきており、子ども世代、親世代に対する見守りネットワークの啓発の一助となっている。

【白糸台(1～3丁目)】

1～3丁目の自治会が継続的に活動している。古くからの住民と比較的新しい住民がおり、高齢化率は低いが、予防的な活動が特に必要な地域である。白糸台地区はしみずがおかと二分している関係上、平成24年度より、高齢者地域支援連絡会を共同開催し、協力して取り組んでいる。地域が広く民生委員の地域住民の把握が他地域と比べ進んでいない現状があるため、重点的に二次予防対象者名簿や災害時要援護者名簿を利用して個別訪問による実態把握やダイレクトメールによるセンター紹介や、介護予防事業への案内を進めている。白糸台文化センターまつりに昨年度から地域の要請でセンターとして出店している。

■人員配置 ※資格：主なものに◎、それ以外のものに○

職員		常勤								非常勤					
		長	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6
										0.8	0.5	0.8	0.4	0.3	0.2
資格	保健師(看護師を含む)			◎											
	社会福祉士	◎	○			◎									
	主任介護支援専門員	○	◎												
	介護支援専門員				◎	○	◎		◎	◎	◎				
	その他	○	○		○	○	○	◎	○	○		○			

■ヒアリング結果

○よく取り組んでいる点、改善された点等

<p>(総合相談支援業務)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域で埋もれている要支援者を把握するため、世帯状況や要介護認定の情報からリスクの高い対象者を選定して働きかけるなど、独自に手段を検討して積極的かつ効果的な実態把握に努めている。
<p>(在宅医療・介護連携推進事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅療養相談窓口として、毎月受けた相談に関して、在宅療養に関する相談をすべて見直し、振り返りの検討を行っている。 ・東部地区の多職種研修会において、リーダー的な役割を担い率先して研修会の実施に携わっている。
<p>(地域包括支援ネットワーク構築等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予防的対応の重要性を認識し、地域への参加を通じて地域包括支援センターの周知を行い、認知度を高めることで、地域の方から情報を得られる機会が増えており、地域包括支援ネットワークの強化が進んでいる。
<p>(介護予防支援・介護予防ケアマネジメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合相談・介護予防コーディネーター間の連携により早期から利用者の把握を行っており、利用者のニーズに合致したプランニングが行えている。
<p>(介護予防事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域で行われているイベントや自治会、シニアクラブによる集まりに介護予防コーディネーターが積極的に参加しており、介護予防の普及啓発だけでなく地域とのつながりが構築できている。

○改善が必要な点、今後期待される取組等

<p>(総合相談支援業務、権利擁護業務)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者及びその家族が抱える多種多様な問題を解決するためには高齢者以外を管轄する他部署・他機関との連携が必要であることから、地域包括支援センターにおいても個別事例の対応の際に積極的に連携を図るなど、顔の見える関係の構築、そして深化に努めてほしい。
<p>(在宅医療・介護連携推進事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療機関との連携において、内科の医師と顔の見える関係が構築され、高齢者の相談等も入るようになってきた。今後、更に対象を広げ医療機関(歯科・薬科等)と関係性の構築を行ってほしい。
<p>(地域包括支援ネットワーク構築等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題ケースの早期発見や重度化防止には地域との連携が不可欠である。地域のイベントへの参加等によりつながりが生まれた自治会もあることから、引き続き連携に苦慮している自治会や、また、コンビニや商店など高齢者の利用が多い場所との連携を深められるよう取り組みを進めていただきたい。
<p>(介護予防事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアの育成にも積極的に取り組んでいただきたい。それにより介護予防を主体的に取り組む方が増え、住民主体の活動の場が増える可能性が広がるのではないかと。

府中市地域包括支援センター 安立園

■基本情報(平成30年10月1日現在)

担当地区	天神町、幸町、府中町、寿町、晴見町														
人口	28,442人	高齢者数	6,110人	高齢化率	21.5%										
自治会数	67団体			シニアクラブ数				11団体							
介護保険事業者延数															
居宅介護支援	訪問介護	訪問入浴介護	訪問看護	訪問リハビリテーション	通所介護	通所リハビリテーション	短期入所生活介護	短期入所療養介護	特定福祉用具貸与	特定福祉用具販売	特定福祉用具	認知症対応型通所介護	小規模多機能型居宅介護	介護老人福祉施設	介護老人保健施設
14	10	0	6	0	2	0	1	0	2	2	2	0	0	1	0

■地域特性

【天神町】

高齢化率20.8%。都営住宅6か所11棟。いちょう通り沿いのマンション以外は戸建てがほとんどで、単身高齢世帯が増えている。民生委員とセンターとの連携が1番活発な地域。古くからの近所つきあいと民生委員の存在により、他4町に比べると支えあいの意識は高いものの、それを課題が上回る日は遠くない印象。

【幸町】

高齢化率21.3%。都営住宅4か所11棟。昔ながらの戸建てが多い。晴見町(一部)と合同の「府中第一中学校避難所運営協議会」の活動を通して自治会同士の連携も強くなってきている。

【府中町】

高齢化率15.9%。都営住宅なし。市中心部に近い便利な地区で、文化センターやルミエール府中等の公的機関には地域住民以外の利用も多い。子世代と同居する戸建てからアパート単身世帯まで住民は多様。丁に1つずつの自治会だが、現在のセンターとのつながりはシニアクラブ中心。

【寿町】

高齢化率21.0%。都営住宅なし。他4町と比べて昨年比+0.7%と高齢化率の伸びが1番高い。甲州街道沿いの高層マンションはオートロックが多く、相談が入らない限り実態把握ができない。自治会は丁に1つずつで、祭りや祝い等横のつながりもある。リーダーが明確なため活動は安定的であるが、やはり後継者や自治会活動の担い手確保の課題があり、センターも祭りの運営などに協力している。

【晴見町】

高齢化率28.3%。都営住宅3か所13棟。府中⇄国分寺の両駅を結ぶバス路線は本数も多く高齢者の足になっている。UR賃貸住宅(569戸)は保証人不要のため高齢者の転入も多い。商店街やバス停が近く暮らしやすいがゆえに地域のつながりが育まれず、病気や災害時には一気に生活が成り立たなくなる脆弱さも伴っている。自治会長を中心に活発に活動しているが、若い世代は有期の優遇制度利用者も多くいずれ転出してしまいうため後継者の課題もある。1丁目の都営住宅では自治会役員数名が見守りや受診付き添いなど具体的支援も展開、随時相談が入ってきている。3丁目は戸建てが多く空き家も増えてきている。

■人員配置 ※資格:主なものに◎、それ以外のものに○

職員		常勤							非常勤						
		長	2	3	4	5	6	1	2	3					
								0.8	0.8	0.8					
資格	保健師(看護師を含む)		◎						◎						
	社会福祉士	◎		◎	○					◎					
	主任介護支援専門員				◎				○						
	介護支援専門員	○		○		○				○	○				
	その他						○								

■ヒアリング結果

○よく取り組んでいる点、改善された点等

(地域包括支援センターの体制・組織運営等)
・高齢者人口の増加やセンターの周知が進んだことで担当内外を問わない相談が増加するなか、職場内の良好なコミュニケーションを基に、相談対応や業務分担の工夫により効率的に業務を進められている。
(総合相談支援業務、権利擁護業務)
・各ケース対応においては、各担当に対応を限定することなく、組織として対応がなされていると感じる。例として、主たる担当者が不在の場合でも、市からの報告や相談等に應對し、丁寧にシステムの記録を残している。
・市から案内されるものだけでなく、社会福祉士会が行うものや主任ケアマネ向けのもの等、多岐に渡る内容の研修を積極的に受講し、制度に対する理解を深め、対応力の向上につなげている。
(在宅医療・介護連携推進事業)
・医療職を2名配置しており、かつベテランの職員全員が協力して在宅療養に関する相談にあたっている。
・在宅療養に関する相談対応をするなかで、医療を受ける側・提供する側の問題を的確に把握している。
・患者が必要かつ適切な支援が受けられるように、連携が取れていなかった機関に積極的にアプローチする、介護に関して理解が不足している医療機関にセンター側から役割分担や適切な支援を提示するなど、在宅療養相談窓口として連携・調整に努めている。
(地域包括支援ネットワーク構築等)
・家族介護者教室について、民間等の家族介護者支援の取組を把握することで懇談会形式から講座形式に切り替え、参加者数の増加につなげられている。
(介護予防支援・介護予防ケアマネジメント)
・ケアプラン件数が多い状況にあるなかでも、介護予防事業やサロンなどの介護保険サービス以外を併せて利用することを意識してケアマネジメントされている。
(介護予防事業)
・地域リハビリテーション活動支援事業を利用し、ケアマネジャー支援やシニアクラブの活動支援など、介護予防や自立支援・重度化防止の観点から有効に活用されている。

○改善が必要な点、今後期待される取組等

(総合相談支援業務、権利擁護業務)
・8050のケースが増加するなかで、特に発達・精神系の障害を持つ(疑いのある)家族について、つなぎ先となる機関との連携等に苦慮されているとのことだった。引き続き幅広い内容の研修を受講することで、障害や制度に対する理解を深めるとともに、事例検討会等の機会を活用し、関係機関との顔の見える関係づくりを進めていただきたい。
(在宅医療・介護連携推進事業)
・市民に在宅療養について伝えるべき知識の把握はされており、対象に依じての普及方法も検討されているので、次年度以降、計画的な市民への普及啓発を期待する。
・「医療機関側の理解不足があつて連携がうまくいかないことがある」「それでも何とか必要な支援を行えた」といった回答があつたので、うまくいかなかった事例、好事例の双方を『医療との連携事例』として報告してほしい。
(地域包括支援ネットワーク構築等)
・地域ケア会議としての高齢者地域支援連絡会のあり方について、地域住民の意見にも耳を傾けながら丁寧に検討している。参加者にとって意義のある会とすることで、参加率も高まり、さらに有意義な会への発展につながることから、引き続き地域のためになる会のあり方について検討を進めていただきたい。
(介護予防事業)
・ふちゆう元気アップ体操やほっとサロンなどの介護予防事業について、担当エリア内において実施できていない地域もある。身近で気軽に通える場所において介護予防事業が行われているよう、実施場所の偏在に留意して解消していただきたい。

府中市地域包括支援センター しみずがおか

■基本情報(平成30年10月1日現在)

担当地区	白糸台(4~6丁目)、押立町、清水が丘、八幡町													
人口	29,158人	高齢者数	6,772人	高齢化率	23.2%									
自治会数	32団体			シニアクラブ数				11団体						
介護保険事業者延数														
居宅介護支援	訪問介護	訪問入浴介護	訪問看護	訪問リハビリテーション	通所介護	通所リハビリテーション	短期入所生活介護	短期入所療養介護	特定福祉用具貸与	特定福祉用具販売	認知症対応型通所介護	小規模多機能型居宅介護	介護老人福祉施設	介護老人保健施設
7	8	0	0	0	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1

■地域特性

【白糸台(4~6丁目)】

武蔵野台駅北側から調布市境までの地域。自治会の構成があさひ苑担当エリアとしみずがおか担当エリアにまたがるため、高齢者地域支援連絡会はあさひ苑と合同開催している。自治会同士のつながりが強い。

【押立町】

担当エリア内で最も面積が広く、人口も多い。市の東南部、調布市との市境に位置し、市中心地から遠いため、調布方面で買い物や通院をしたり、調布市の介護保険サービスを利用する方も少なくない。電車の駅に出るには坂があり、駅から遠くバス停からも遠い方は車で移動が外出困難となるケースが多い。

築30年以上の団地や戸建て住宅があり、高齢者世帯、単身者世帯が増えているが、現住民の高齢化と合わせ、団地への高齢者の転入が多くなっていることも要因として挙げられる。団地やマンションの集会所を活用したサロン活動が行われており、高齢化について住民意識が高くなっている。押立体育館や押立文化センターなど、市の施設も活用されている。

【清水が丘】

東西は東府中駅から多磨霊園駅まで、北は品川街道、南はしみず下通りまでの地域。1~3丁目まで、丁目ごとに自治会と老人会、公会堂がある。1丁目では店舗を間借りする形での認知症のサロンが昨年立ち上がった。高齢単身世帯、高齢者のみ世帯が多い。

【八幡町】

府中駅から東府中駅の南側に位置し、競馬場が近いので開催日は来場者による交通渋滞がある。旧甲州街道沿いはオートロックマンションが多く、見守りが難しい地域である。利便性が高く、単身高齢者割合が高い。日吉体育館、公会堂を利用した高齢者の活動が盛ん。

■人員配置 ※資格:主なものに◎、それ以外のものに○

職員	常勤								非常勤					
	長	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4			
								0.9	0.9	0.7	0.5			
保健師(看護師を含む)			◎											
社会福祉士	◎	○		◎										
主任介護支援専門員		◎												
介護支援専門員	○		○	○	◎	◎		◎						
その他						○								

■ヒアリング結果

○よく取り組んでいる点、改善された点等

(総合相談支援業務)
・職員の相談に関する対応能力向上のために、個々人の研修受講で学んできたことをミーティングを活用して全体で共有するようしており効果的である。
・ケース対応の進行管理が十分になされている。
(在宅医療・介護連携推進事業)
・センター職員全体で、在宅療養相談窓口としての相談業務に取り組んでいる。
・多職種研修会の企画運営の過程で、報告書や記録作成等、提出用に時間のかかる業務に関しても積極的に引き受けている。
(地域包括支援ネットワーク構築等)
・町別に担当を設け、高齢者地域支援連絡会の場を活用して地域の関係者に周知を行うことで、地域からの情報が得やすくなっている。また、連絡会でつながれない自治会とも、介護予防事業や防災訓練への参加を通じて関係づくりを行っており、地域とのネットワーク構築を積極的に進めている。
(介護予防支援・介護予防ケアマネジメント、介護予防事業)
・昨年度は業務の滞りが課題として挙げられていたが、今年度は業務進行に気になる点はなく改善が見られる。
(介護予防事業)
・地域リハビリテーション活動支援事業の講座案内を全戸にポスティングする等、新規参加者獲得に向けた案内の工夫に努めている。

○改善が必要な点、今後期待される取組等

(地域包括支援センターの体制・組織運営等)
・すべてのセンターの抱える課題であると思うが、センターとして「情報を得る力のない方への周知方法の検討」と挙げており、様々な方法を試みて効果的な方法がないかなど検討してほしい。また、よい案があればセンター長会議等を利用し、他センターへも情報提供していただきたい。
(総合相談支援業務)
・引き続き、ケース対応、虐待対応の進行管理を行うなど、切れ目のない支援をお願いしたい。
(権利擁護業務)
・関係機関にうまく引き継いだ、引き継ぐことができなかったケースについて、振り返り等を行い、原因分析に努めていただきたい。
(在宅医療・介護連携推進事業)
・事例報告書の提出期日について、厳守するようお願いしたい。
(介護予防支援・介護予防ケアマネジメント)
・自立支援やインフォーマルサービスを取り入れることを意識し、今後もケアプラン作成をしていただきたい。
(介護予防事業)
・介護予防事業の新規参加者への事業案内について、趣味活動や地域活動にも参加していない方への効果的なアプローチ方法を引き続き検討していただきたい。

府中市地域包括支援センター かたまち

■基本情報(平成30年10月1日現在)

担当地区	片町、宮西町、宮町、矢崎町、本町、日吉町														
人口	22,980人	高齢者数	4,466人	高齢化率	19.4%										
自治会数	46団体			シニアクラブ数				13団体							
介護保険事業者延数															
居宅介護支援	訪問介護	訪問入浴介護	訪問看護	訪問リハビリテーション	通所介護	通所リハビリテーション	短期入所生活介護	短期入所療養介護	特定福祉用具貸与	特定福祉用具販売	特定福祉用具	認知症対応型通所介護	小規模多機能型居宅介護	介護老人福祉施設	介護老人保健施設
7	12	1	2	0	1	1	0	1	1	1	0	0	0	0	1

■地域特性

<p>【片町】 分倍河原駅周辺や旧甲州街道沿いの商業エリアとそれ以外の住宅地域からなり、戸建て住宅が比較的多い。交通の便が非常によい。自治会は丁目ごとにまとまっており、祭り行事や防災訓練を合同で行うなど昔からの地縁は強いが、転入してきた住民は比較的地域との関わりが薄い。シニアクラブの活動は活発である。片町文化センターがあり、周辺住民の地域交流の拠点となっている。</p>
<p>【宮西町】 市中心部に位置し、南部に一部戸建て住宅地域を残すが大部分が商業地域かマンションである。高齢化率は低い一方で、単身高齢者世帯は多い。新しいマンションが多く、特にオートロックのマンションなど高齢者の把握は進んでいない。戸建てを中心とした自治会においてマンション住民とのつながりを持てるよう働きかけているところもある。</p>
<p>【宮町】 府中駅の南、市中心部に位置し、生活利便性は高い。北部の1、2丁目は大型商業施設と大型マンションが立ち並び、南部の3丁目は戸建て住宅群で自治会を中心にまとまっている。高齢化率は低い一方、単身高齢者世帯は多い。総じて老人会の活動も活発であるが、後継者なく、解散したところもある。</p>
<p>【矢崎町】 市南部に位置し、サントリーの工場で南北に分断されている住宅地域。交通の便はよくなく、商業施設は少なく、医療機関はない。1丁目は古くからの住民が多く、自治会のつながりが強い。老人会は2丁目の都営住宅に1つあるだけだが、建て替えて住民の入れ替わりが続いている。</p>
<p>【本町】 東西に長く、おおむね丁目ごとの自治会でまとまっているが、比較的新しい住宅群では、細かく区切られた数十世帯の自治会もあり、孤立しがちな高齢者が潜在的に含まれている。大きい自治会では住民相互のつながりも強い。老人会は2、3、4丁目にはあるが、1丁目は解散し、存在しない。</p>
<p>【日吉町】 競馬場。人は住んでいない。</p>

■人員配置 ※資格:主なものに◎、それ以外のものに○

職員	常勤										非常勤				
	長	2	3	4	5	6	7	8	9	10					
資格	保健師(看護師を含む)														
	社会福祉士														
	主任介護支援専門員														
	介護支援専門員														
	その他														
	○	◎	◎	○	◎										
	◎			◎		◎	◎			○					
	○						○	◎	◎	◎					

■ヒアリング結果

○よく取り組んでいる点、改善された点等

(地域包括支援センターの体制・組織運営等)
・訪問を必ず2人で行ったり、ミーティングを密に行うなど、情報の共有が図られている。 ・災害時要援護者登録アンケートの未回答者を訪問し、相手が覚えていない場合は、説明することで登録につなげている。また、訪問しながら、気になる方の記録を残し、アプローチにつなげるようにしている。
(総合相談支援業務、権利擁護業務)
・以前より継続して取り組んでいただいている点だが、ケース対応を原則2人以上の対応で行い、緊急性や対応方針を都度複数の職員で確認しながら、丁寧に対応している。また、センター内で朝と夕にミーティングを行い、困難ケースの共有や対応の検討も実施しており、手厚く対応していることが伺える。 ・長寿祝い訪問や災害時要援護者名簿の登録意向調査の結果から、フォローする必要性がある方への訪問を積極的に行い、地域包括支援センターの周知に努めている。
(在宅医療・介護連携推進事業)
・職員間で在宅療養の相談対応にばらつきがないよう、相談には原則2人であたっているほか、朝・夕のミーティングで情報を共有し、初回の対応に不足があった場合には職員同士でフォローするなど、積極的に対応している。 ・『医療との連携事例』について、毎月職員全員で提出事例を選定し、こまめに提出している。また、好事例・困難事例に関わらず、支援において不足していた部分や今後にどのようにつなげていくかなど、ケースを振り返ったうえでの分析も記載されている。 ・自分たちの不足している部分をしっかりと分析し、それを改善するための手段を講じている。
(介護予防支援・介護予防ケアマネジメント)
・職員間で介護予防事業等の選択肢を提案することで、介護サービスのみにも頼ることがないようケアプラン作成に努めている。
(介護予防事業)
・既に自主化しているグループについて、役員の仕事を1年交代の持ち回り制にすることで1人に負担がかからず継続できるよう工夫がなされている。

○改善が必要な点、今後期待される取組等

(地域包括支援センターの体制・組織運営等)
・職員間の経験に差があることから、センター内で研修を行い、スキルアップを図ってほしい。高齢者予備軍の若い世代に対し、センターの周知を図り、その世代が高齢者になったときに備えてほしい。
(総合相談支援業務)
・府中駅前の高層マンションを含む地域特性から、それらのマンションとどのようにつながり、センターを周知していくかが課題である。今後も地域との連絡会を通して自治会、管理組合との連携をより深めていただきたい。 ・社会資源の情報をどのように管理していくかを見直し、こまめに情報を取り入れ、データベースを更新するよう心がけていただきたい。 ・日頃から手厚くケース対応しているが、各職員の負担感のケアを心がけていただきたい。
(在宅医療・介護連携推進事業)
・『医療との連携事例』がしっかり記載されているので、スキルアップの一環として記憶が薄れないうちに職員間で共有されることを期待する。
(介護予防支援・介護予防ケアマネジメント)
・課題にも挙がっているが、インフォーマル資源の情報収集を引き続き進め、インフォーマル資源を取り入れたケアプラン作成に努めていただきたい。

府中市地域包括支援センター しんまち

■基本情報(平成30年10月1日現在)

担当地区	栄町、新町													
人口	14,662人	高齢者数	4,206人	高齢化率	28.7%									
自治会数	83団体			シニアクラブ数				8団体						
介護保険事業者延数														
居宅介護支援	訪問介護	訪問入浴介護	訪問看護	訪問リハビリテーション	通所介護	通所リハビリテーション	短期入所生活介護	短期入所療養介護	特定福祉用具貸与	特定福祉用具販売	認知症対応型通所介護	小規模多機能型居宅介護	介護老人福祉施設	介護老人保健施設
1	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	1	0	0

■地域特性

【栄町・新町】

市内の北部に位置し、小金井市・国分寺市と隣接している。東西に横長のエリアであり、公共交通機関は南北のバスはあるが、東西の移動には不便を感じる地域である。隣接する市の商業施設や医療機関、施設を利用する人も多い。センターは担当エリアの東に位置するため、栄町在住の方には不便さがある。また、地域には公共の施設が少なく、新町文化センターと栄町体育館の2施設以外は都営住宅の集会所等小規模な施設しかない。センターが催しを行う場合も、地域の方が自主的に集う場合も、適切な場所がなく大きな課題となっている。

市内でも高齢化率の高い地域であり、年々上がっている(新町27.6%、栄町30.5%)。また、高齢者の27.8%が単身世帯となっている。都営住宅、市営住宅ではさらに高齢化率が高く、エレベーターがないなど住環境の問題もある。戸建て住宅の自治会は10～30世帯で構成される小さな自治会が非常に多く、回覧板を回すだけの自治会が大多数を占める。空き家が増えていることも課題。一方で、同時期に分譲され入居した自治会などはお互い気にかけて、支えあっている。集合・戸建て住宅とも高齢者の見守り体制をどのように築くか、高齢を理由に自治会を脱会する人や、自治会員の高齢化が進み活動休止に追い込まれるなど、様々な課題を抱えている。地域のシニアクラブ・婦人会等の見守り活動のほか、自治会、自主グループのサロン活動がセンターやわかまち支えあい協議会との関わりのなかで広げられるよう模索している。

市境のため介護保険事業所が少ない。市内全域の事業所と協力関係を築くことが重要となっている。

■人員配置 ※資格:主なものに◎、それ以外のものに○

職員	常勤							非常勤						
	長	2	3	4	5	6	7							
資格	保健師(看護師を含む)			◎										
	社会福祉士	◎	○		◎	○								
	主任介護支援専門員		◎		○									
	介護支援専門員	○			○	◎								
	その他		○			○	◎	○						

■ヒアリング結果

○よく取り組んでいる点、改善された点等

- (総合相談支援業務)
 - ・地域のニーズを各職員の日常業務の中から蓄積し、担当エリアの傾向やニーズについて話し合っている。
- (在宅医療・介護連携推進事業)
 - ・家族介護者教室やケアマネジャー支援等で、訪問診療や在宅医療をテーマとした講座を開催し、市民・関係者へ普及啓発を行っている。今年度は、他のセンターと協力して講座を行うことで、より広く市民に周知でき充実した啓発事業が実施できた。
- (地域包括支援ネットワーク構築等)

<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括支援センターの設置目的や基本的機能の周知に向けて商店街活動へ積極的に参加していることや、絵本の読み聞かせ、ハロウィンイベントなど地域の幼稚園とシニアクラブをマッチングするなどの地域拠点機能の発揮など、努力している様子が確認できた。これにより、見守りネットワークの維持や拡充にもつながっているものと考える。
<p>(介護予防支援・介護予防ケアマネジメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象者の状況と本人の意向を踏まえ、サービスの目的を明確にし、卒業することができた事例があった。
<p>(介護予防事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護予防事業の新たな会場の開拓に力を入れたことにより、新規利用者が増加した。

○改善が必要な点、今後期待される取組等

<p>(総合相談支援業務)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・センターとして今後の課題として挙げている各種医療・福祉制度を相談に生かせるように、分からないことがあれば相談してほしい。
<p>(在宅医療・介護連携推進事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後、多職種連携等でICTを活用した情報共有ツールの活用が進められる。要請があった場合、センターとしてすぐに対応できるよう、事前の準備をお願いしたい。
<p>(地域包括支援ネットワーク構築等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域包括支援センターの設置目的や基本的機能の周知については、地縁組織やサービス事業所などへのアプローチは努力が見受けられるものの、若い世代(生産世代)に対するアプローチに苦労している様子であったため今後どのように周知していくのが課題である。 ・見守りネットワークの構築については、上記に加え、既存のつながりについて形骸化しないように維持し続けることが課題となる。
<p>(介護予防事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア育成において、教室参加者や募集チラシ等で広く周知活動はされているが、十分な担い手が確保できていない状況なので、今後も積極的に市民と関わりを持ってボランティアを育てていただきたい。

府中市地域包括支援センター 緑苑

■基本情報(平成30年10月1日現在)

担当地区	浅間町、若松町(2~5丁目)、緑町														
人口	24,496人	高齢者数	4,430人	高齢化率	18.1%										
自治会数	32団体			シニアクラブ数				4団体							
介護保険事業者延数															
居宅介護支援	訪問介護	訪問入浴介護	訪問看護	訪問リハビリテーション	通所介護	通所リハビリテーション	短期入所生活介護	短期入所療養介護	特定福祉用具貸与	特定福祉用具販売	特定福祉用具	認知症対応型通所介護	小規模多機能型居宅介護	介護老人福祉施設	介護老人保健施設
0	1	0	1	1	3	1	1	1	0	0	0	0	0	1	1

■地域特性

【全体】

1か所の都営住宅と1か所の市営住宅、高齢者専用住宅やすらぎ2か所を抱えている。
市内で最も高齢化率が低く、特に若松町については40歳から64歳の人口が多く、今後、これらの方々が高齢期を迎えていくことになる。センターがそれぞれの地区に伺い介護予防事業や見守り事業の周知、実施を進めていくのももちろんだが、地域住民同士が相互に助け合っていける役割づくり、自発的に活動していける環境づくり・場づくりを進めていきたい。

【浅間町】

昔から自治会・老人会・婦人会が相互に連携し、協力体制のもとで地域づくりに取り組んでいる。特に浅間山を抱える地域として山に関することでの人間関係が強く根づいている。また、各自治会が新しく建つ住宅に対しては自治会への勧誘を必ず行い、積極的に声を掛けていく等、地域のまとまりを常に考えている地域である。浅間町の自治会を中心に防災組織も形成されている。一方で役員体制について高齢者中心の自治会と、若い現役世代中心の自治会があり、また、連番制で毎年役員が一新されるところが多く、年数をかけての継続した取組が引き継がれにくい課題が出てきている。商工会については地域の方々が参加できるハロウィン祭りをを行い、高齢者から子ども達まで幅広い世代を対象に活動を展開し、顔の見える関係づくりを進めている。

【若松町】

介護老人保健施設や有料老人ホームがある。昔からの居住者、地主も多い反面、新興住宅や賃貸アパートで生活する新しい住民も多く、関わりが難しい部分もあると思われるが、自治会を中心に季節ごとのカレーパーティー・芋煮会等の行事で熱心に地域づくりを進めている。

【緑町】

八幡町から移り住んだ方や新しく住宅を購入した方が多く住んでいる。市の中心部に位置し、所得の高い方も多い。主たる自治会は4自治会、老人会1団体、婦人会1団体である。高層マンションも増加し、高齢者のみでなく、児童も増加傾向にあり、府中第二小学校は市内でも児童数が多く、浅間中学校では青少年対策地区委員会も活発に活動している。府中の森公園では自主的にシニア世代の方々が健康のため、個人・グループで様々な活動を行っている。今年度からは公園管理センターに高齢者地域支援連絡会に参加してもらい、地域自治会との交流が進みつつある。

■人員配置 ※資格:主なものに◎、それ以外のものに○

職員	常勤								非常勤				
	長	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	
								0.4	0.5	0.2	0.6	0.2	
保健師(看護師を含む)			◎										
社会福祉士	◎				◎			◎					
主任介護支援専門員				◎		○							
介護支援専門員	○	◎		○	○	○		○	○				
その他	○	○		○	○	○	○	○	○				

■ヒアリング結果

○よく取り組んでいる点、改善された点等

(総合相談支援事業)
・相談者が相談しやすいよう、敷居を低くすることを意識して地域との関係づくり等に取り組んでいる。 ・初回の相談を2人対応とすることで、対象者像を多角的に捉えるように心がけている。また、お互いに対応をチェックし、共有することで職員の対応力の向上を図っている。
(在宅医療・介護連携推進事業)
・自身の思いや状況を上手く医療従事者等の相手に伝えることができない市民の気持ちに寄り添い、その立場に多々支援を行っている。
(包括的・継続的ケアマネジメント支援業務)
・ケアマネジャーへの支援については、前年度の課題であった「障害から介護への切り換え」に関する事例やケーススタディを勉強会のテーマとして設定するなど、改善の努力を感じた。
(地域包括支援ネットワーク構築等)
・地域包括支援センターの設置目的や基本的機能については、既につながりがある組織へは全般的に良好な関係性のもと、周知できていた。また、祭りや体力測定会などの地域行事に参加することでセンター業務以外でもつながりの場を設ける努力を感じた。回覧物だけでは目に留まりにくいものの、こうした地道な活動を通じて、介護にかかる前段階から地域とつながることができると考えられる。 ・見守りネットワークの構築については、自治会、民生委員のほかコンビニエンスストアから連絡をもらうなど、地域に根差したものとなっていた。
(介護予防事業)
・居場所ややりがい提供のため、ボランティアの募集を積極的に行っており、ふちゆう元気アップ体操やほっとサロン、介護予防講座等で活躍していただいている方が20名程度いる。事業参加者から事業運営の一端を担う役割となる流れができてきている。また、緑苑でのボランティア活動だけでなく、近隣センターの介護予防コーディネーターと連携し、ボランティアの活動の幅を広げる取組も行っている。ボランティアのやる気を引き出すことによって、ボランティア側からの提案もあり、事業内容がよりよいものとなっている。

○改善が必要な点、今後期待される取組等

(地域包括支援センターの体制・組織運営等)
・提出物が期限までに提出されないことが度々あるので、期限までに提出するよう意識してほしい。
(総合相談支援業務)
・障害者福祉や生活保護に関する学習会を計画していたが開催できていないとのことであったので、次年度は実現し、職員の多様な知識の習得を図り、対応力の向上につなげてほしい。
(在宅医療・介護連携推進事業)
・在宅療養相談窓口の周知に関して、家族介護者教室や介護予防講座等でセンターに来る方に関しては、既に周知されており、センターを含めて全く介護保険等に関係しない方にも発信する必要があることを認識されていた。ぜひ、そうした方々へも情報が届くよう工夫し、相談窓口の周知に取り組んでいただきたい。
(地域包括支援ネットワーク構築等)
・担当エリアの高齢化率は、現在は比較的低く推移しているものの、今後急速に増加していくことが予測される。高齢になる前の世代に「地域包括支援センターの役割」や「見守りの必要性」、「認知症」などについて理解が進むよう普及啓発を進めるなど、高齢者が増えてから考えるのではなく、今のうちから周知を図ってほしい。 ・担当エリアは高層マンション等による新規の若い世代と従来の住民との関わりが特に希薄なエリアとなっているため、少しでも「同じ地域住民」としての意識が持てるような取組に努めてほしい。
(介護予防支援・介護予防ケアマネジメント)
・地域のインフォーマルなサービスの把握にも努めていただきたい。担い手不足が進むなか、地域に戻っていきけるようなプランニングが今以上に求められるようになる。様々なサービスを把握し、より質の高いケアマネジメントに期待したい。

府中市地域包括支援センター にしふ

■基本情報(平成30年10月1日現在)

担当地区	西府町、本宿町、日新町														
人口	17,206人	高齢者数	3,374人	高齢化率	19.6%										
自治会数	12団体			シニアクラブ数				5団体							
介護保険事業者延数															
居宅介護支援	訪問介護	訪問入浴介護	訪問看護	訪問リハビリテーション	通所介護	通所リハビリテーション	短期入所生活介護	短期入所療養介護	特定福祉用具貸与	特定福祉用具販売	特定福祉用具	認知症対応型通所介護	小規模多機能型居宅介護	介護老人福祉施設	介護老人保健施設
5	1	1	2	3	6	1	2	0	1	0	1	1	1	1	0

■地域特性

【全体】

西府文化センター圏域のコミュニティ協議会に属しており、文化センター祭りや高齢者向けの輪投げ、ペタンク、グランドゴルフ等の競技会を主催している。

【西府町、本宿町】

南北に走る鎌倉街道と東西に走る甲州街道により、5・6地区に生活圏域が分かれる。

本宿町北部には東芝事業所があり、本宿3・4丁目地区は東芝関係者が多く住んでいる。比較的元気で社交的な高齢者が多くいる一方、老人会や自治会とも疎遠な人がいる。また、マンションやアパート等の資産を持つ高齢者もいる反面、家賃の安い集合住宅に住む独居高齢者もあり、所得格差が大きい。くらやみ祭りや熊野神社の例大祭の氏子を軸とした地縁が深い。

【西府町、日新町】

国立市との市境に位置する。かつては農業を中心に営んでおり、田畑が多く存在していたが、近年は宅地や事業所用地の開発が進んでいる。

日新町地区は、日本電気(NEC)の府中営業所があり、2万人規模の従業員が勤めている。

〈交通や買い物、医療機関などの環境について〉

西府町と本宿町は甲州街道・新鎌倉街道・南武線線路で、日新町はハケ(崖稜線)と中央高速道路の高架により生活区域が複数に分割されている。公共交通機関は、市内を南西に横切るJR南武線西府駅がある。バスは、甲州街道を通るバス便は1時間に1本、西府駅ロータリーを経由するバスの乗り入れ便が少ない。ちゅうバスは、本宿町の北側に一部通るだけで、不便との感想を聞いている。日新町地区からは市内へのバス便が通っていない地区があり、バス便のある聖蹟桜ヶ丘に出る人が多い。移動用にマイカーを所有する世帯が多く、80歳を超える高齢ドライバーが多い。西府駅前にスーパーマーケット、平成30年末にドラッグストアが開店し、食品・日用品の購入先としてハケ上地区の買い物環境は改善された。飲食店が少なく、ホームセンターや衣料品店・靴屋等がなく、不便な面は残る。医療機関は、地区内に内科2医院、整形外科1医院であったが、西府駅前に平成29年秋に眼科、30年春には内科・小児科が新規開業。前述したように医療機関はあるが、医院の場所や科目が偏在しており受診しにくい環境にある。

■人員配置 ※資格:主なものに◎、それ以外のものに○

職員	常勤							非常勤						
	長	2	3	4	5			1	2	3	4			
								0.8	0.8	0.3	0.3			
資格	保健師(看護師を含む)				◎									
	社会福祉士	○	◎	○				○						
	主任介護支援専門員	○		◎										
	介護支援専門員	○	○	○				◎						
	その他		○			○			○	○				

■ヒアリング結果

○よく取り組んでいる点、改善された点等

<p>(地域包括支援センターの体制・組織運営等)</p> <ul style="list-style-type: none">・人の目を引く工夫を凝らした広報誌を作成し、市民への地域包括支援センターの周知に努めている様子が伺えた。・圏域内の地域特性を町別だけでなく、鉄道や幹線道路等で区切られた生活圈域ごとに分析している。
<p>(在宅医療・介護連携推進事業)</p> <ul style="list-style-type: none">・個別支援を主軸として、積極的に医師と直接会う・話す機会をつくり、顔の見える・相談できる関係を構築するよう努めている。・在宅療養相談を前面に出したセンターのパンフレットを独自に作成し、圏域内の医療機関すべてに配付・設置依頼をすることで、在宅療養相談窓口の普及に努めている。・薬剤師会との連絡会、多職種研修会の企画・運営において主力メンバーとして積極的に活動している。
<p>(包括的・継続的ケアマネジメント支援業務)</p> <ul style="list-style-type: none">・ケアマネジャーへの支援については、ケアマネジャーが期待するサロンや事例勉強会のあり方について柔軟に対応しており、スキルアップやネットワーク構築に尽力している様子が伺えた。
<p>(地域包括支援ネットワーク構築等)</p> <ul style="list-style-type: none">・地域包括支援センターの設置目的や基本的機能については、既につながりがある組織(自治会、民生委員など)だけでなく、コミュニティ協議会、高齢者地域支援連絡会、自主防災連絡会などの場を生かしながら全般的に良好な関係性のもと、周知できていた。また、独自の広報誌を年4回発行して回覧場所も介護だけでなく医療機関へも掲示するなど広く周知していた。・見守りネットワークの構築については、センターと民生委員とが深く結びつき、連携が取れている。
<p>(介護予防事業)</p> <ul style="list-style-type: none">・気軽に参加できる住民主体の通いの場を担当エリア内に場所、人数ともに増やす方向であり、地域活動に結びつける積極性が見られる。

○改善が必要な点、今後期待される取組等

<p>(総合相談支援業務)</p> <ul style="list-style-type: none">・ケースの振り返りや事例研究について、業務の繁忙により実施する時間が取れなくなっているとのことであったが、これを行うことで客観的な分析を行うことができ、新たな気づきが生まれ、対応力の向上につながるものと思われる。そのためセンター内部でも業務の効率化や見直しを行い、実施できるように努めてほしい。
<p>(在宅医療・介護連携推進事業)</p> <ul style="list-style-type: none">・<課題として強化・充実していくこと>として、「在宅療養窓口業務に関わる職員のスキルアップを図る」とあり、口頭で「看取り・ACPなど個々の権利についての研修の参加」が挙がっていた。ただ、研修だけではなく、在宅療養に関わるケースの振り返りを行うこともスキルアップにつながると思われるため、センター内で、ひいては関係機関も含めての振り返りなども検討・実施していただきたい。
<p>(地域包括支援ネットワーク構築等)</p> <ul style="list-style-type: none">・地域包括支援センターの機能や見守りネットワークの必要性について、小中学校、PTA、青少年対策地区委員会など「子ども」のために活動する現役世代にも周知・啓発して行ってほしい。
<p>(介護予防事業)</p> <ul style="list-style-type: none">・参加者が能動的に活動し始めているので、十分な担い手が確保できるよう、ボランティアの育成に今後も引き続き力を入れていただきたい。

府中市地域包括支援センター これまさ

■基本情報(平成30年10月1日現在)

担当地区	小柳町、是政														
人口	22,128人	高齢者数	4,885人	高齢化率	22.1%										
自治会数	15団体			シニアクラブ数				9団体							
介護保険事業者延数															
居宅介護支援	訪問介護	訪問入浴介護	訪問看護	訪問リハビリテーション	通所介護	通所リハビリテーション	短期入所生活介護	短期入所療養介護	特定福祉用具貸与	特定福祉用具販売	特定福祉用具	認知症対応型通所介護	小規模多機能型居宅介護	介護老人福祉施設	介護老人保健施設
2	3	0	3	0	6	0	0	0	0	0	1	0	0	0	

■地域特性

【全体】

居宅介護支援をはじめ介護保険関連事業所は少ない。医療機関は入院可能な病院が1か所、医院は8か所。生活資源ではスーパーが1か所、コンビニが8か所、その他空き店舗は多数。コンビニを身近な店として利用する高齢者が多く、認知症高齢者の見守り等、連携が必要となっている。交通機関はちゅうバス2系統、西武多摩川線がJRにつながり、沿線の病院や買い物に鉄道を利用する人が多い。特筆すべきは多摩川競艇である。開催日は交通量と人の出入りが増え、地域の雰囲気が変わる。周辺住民には従業員として働いていた人が多いのも特徴といえる。今は多少、低迷になったとはいえ地域全体への影響は否めない。

是政、小柳町は多摩川に沿い、東西に延び、南側は崖線下から京王線の一部まで、中央高速を跨ぐ。市内では概ね、低地に属する地形が大半である。こうした地形や培ってきた歴史は地域の特性として住民意識に影響している。

住民主体の交流サロン「コミュニティカフェこれまさ」「こやなぎサロン」「ポピーの会」が活動中。企画・運営は自治会と地域住民が担い、センターは協力者の立場に関わり、既に約7年が経過、今後も継続の予定である。

【小柳町】

約50年前に住宅地として開発された地域に住み始めた人が大半を占めている。当時、3、40代の住民の多くが一斉に高齢化しているため高齢化率も上昇傾向である。是政に比べ住民意識が高く積極的なため自治会活動も比較的盛んである。小柳町に属する連合組織として「小柳五町会」を設け毎年、主催当番を決め、防災や防犯等の啓発活動を行っている。センターも参加し問題意識を共有、住民組織との連携を基に積極的な周知啓発活動に取り組んでいる。

【是政】

繰り返される多摩川の洪水が村人の結束を強め、それにより築いた地域の絆が今も残っていると住民から聞く。当然、時代は変わったが、未だに一部住民は閉鎖的で村意識が強い。50年住んでも新参者と言われる所以である。祖先から受け継いだ広い田畑の維持は難しく、近年は大型マンションや分譲住宅、アパートが増え、当然、若年層の流入も進んでいる。旧来の住民と新住民の間に交流の機会は少なく、自治会の主要メンバーの高齢化も進んでいるが、改善の兆しは見られない。センターへの相談は多いが組織的な介入は難しく継続的な課題である。

■人員配置 ※資格:主なものに◎、それ以外のものに○

職員	常勤								非常勤					
	長	2	3	4	5	6	7	1	2					
								0.3	0.3					
資格	保健師(看護師を含む)			◎										
	社会福祉士		◎		○									
	主任介護支援専門員				◎									
	介護支援専門員	◎	○			◎	◎		◎	◎				
	その他	○			○	○	○	◎	○	○				

■ヒアリング結果

○よく取り組んでいる点、改善された点等

(総合相談支援業務)
・職員間のケース情報の共有がシステム化されており、担当職員が相談票を即日入力し、センター長が確認後、全職員に回覧する流れを確立し、実行できている。
(在宅医療・介護連携推進事業)
・在宅療養の相談を含め、ケースや研修会・会議の内容についてセンター内で検討及び情報共有を行い、業務にあたっており、活動の方向性や支援方針のベクトルが揃っている。
(地域包括支援ネットワーク構築等)
・高齢者地域支援連絡会では、参加者に実施したアンケートに基づいてテーマを決めることで、参加者が意欲的に地域課題について話し合えるよう工夫が行われている。また、連絡会で挙げた課題を各地域に持ち帰ってもらい、共有・検討してもらう仕組みができている。
(介護予防支援・介護予防ケアマネジメント)
・地域リハビリテーション活動支援事業を活用し、ケアマネジャー支援の一環として地域資源利用に向けた講座を開催するなど、ケアマネジャーに対して介護予防事業や地域のインフォーマルサービスの紹介を積極的に行い、自立支援の観点から質の高いプラン作成につながるよう取り組んでいる。
(介護予防事業)
・ほっとサロンの自主化に向け、会場にある棚に折り紙やゲーム等を設置し、会場に来たらそこから自由に選んでもらってすぐ活動が始められるような環境にしており工夫が見られる。

○改善が必要な点、今後期待される取組等

(権利擁護業務)
・高齢者及びその家族が抱える多種多様な問題を解決するためには他部署・他機関と協働した対応が重要となることから、それらの機関との連携が深められるよう、センターにおいても個別事例の対応の際に積極的に連携を図るように努めてほしい。
(在宅医療・介護連携推進事業)
・在宅療養の相談窓口として徐々に浸透してきており、地域の医療機関からも相談が入るようになってきている一方、そうしたアンテナが低い機関もあり、今後、後者に対するアプローチの方法をぜひ検討してほしい。
(地域包括支援ネットワーク構築等)
・センターが発信する情報が行き届きにくい自治会未加入者や集合住宅に住む方々についても、地域から孤立して支援から漏れてしまうことがないよう、民生委員等との連携を強化し、実態把握やセンターの周知に努めていただきたい。
(介護予防事業)
・介護予防事業新規利用者開拓のため、引き続き地域行事等の場を活用し、積極的に介護予防事業を周知していただきたい。

府中市地域包括支援センター みなみ町

■基本情報(平成30年10月1日現在)

担当地区	南町														
人口	9,217人			高齢者数			2,554人			高齢化率			27.7%		
自治会数	9団体					シニアクラブ数				4団体					
介護保険事業者延数															
居宅介護支援	訪問介護	訪問入浴介護	訪問看護	訪問リハビリテーション	通所介護	通所リハビリテーション	短期入所生活介護	短期入所療養介護	特定福祉用具貸与	特定福祉用具販売	特定福祉用具	認知症対応型通所介護	小規模多機能型居宅介護	介護老人福祉施設	介護老人保健施設
3	3	0	0	0	2	0	1	0	1	1	0	0	0	1	0

■地域特性

【南町】

市の南側に位置している。近隣には公営公園があり自然豊かな街並みである。古くから田畑を営む農家もあり、水路や井戸も多く存在している。多摩川が近隣にあり、住民は多摩川沿いを散歩していることが多いと聞いている。

町の中心部には、戸建て住宅や民間賃貸住宅が存在。南側には公営高層集合住宅が多数あり、高齢者世帯や障害者世帯が多く居住している。公営高層集合住宅の高齢化により、老老介護問題や障害者の家族を巻き込んだ問題複合ケースが多くなり始めている。

祭りや盆踊り等自治会活動が盛んな地域である。自治会は100世帯程度から1,000世帯を超える大きな規模のものまであり方は様々である。田畑だった土地に新しい戸建て住宅が建ち若い世代が転入してきているが、自治会に入らない方も多いと民生委員から聞いている。

町の外周や一部には、近隣駅や市役所までの公共交通機関、コミュニティバス路線があり、多くの住民が利用している。中心部には、路線がないため、自転車や徒歩で移動をしている住民も多数いる。町内に診療所は3件あるが、有床の医療機関がないため、近隣の総合病院に救急搬送されることが多い。

公会堂が2か所、集会所は5か所あるが、地域活動も盛んであるため、介護予防事業に使える会場が限定されている。

■人員配置 ※資格:主なものに◎、それ以外のものに○

職員	常勤								非常勤						
	長	2	3	4	5	6	7	8	1						
									1.0						
資格	保健師(看護師を含む)			◎											
	社会福祉士		◎		○	◎									
	主任介護支援専門員				◎										
	介護支援専門員	◎		○	○		○								
	その他	○						○	○						

■ヒアリング結果

○よく取り組んでいる点、改善された点等

(地域包括支援センターの体制・組織運営等)

・土・日・祝日も職員を配置し、対応する体制がとられており、平日では相談できない方への体制がとられている。

(総合相談支援業務)

・朝礼を利用し担当しているケースの進捗状況を報告し、対応についての助言も行っている。

<p>(在宅医療・介護連携推進事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪問看護と病院のMSWとの情報交換会及び多職種研修会の企画を率先して行っている。 ・今後の取組として、在宅療養支援のケースの振り返りをセンター内だけでなく、他機関を交えて行うことを考えており、スキルアップに対しても積極的な姿勢が伺える。 ・「医療との連携事例報告書」も保健師以外の相談員からの提出もあり、相談員全員が在宅療養相談窓口としての意識を強く持って業務にあたっている。
<p>(包括的・継続的ケアマネジメント支援業務)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多職種事例検討会では様々な関係機関を巻き込んだ規模の大きな事例検討会を開催するなど、積極的に実施されている。
<p>(地域包括支援ネットワーク構築等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の課題を話し合う場で関係機関と協力しながら問題解決のスキームを検討している。 ・高齢者支援連絡会では南町の地域課題を取り上げて共有する取組がされている。
<p>(介護予防支援・介護予防ケアマネジメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケアプラン作成について、本人の生活上の目標を明確にしたうえで、それを実現するための手段として介護保険サービス(予防給付・総合事業)を利用している例が挙げられており、介護予防事業につなげるなど、自立支援に向けたケアプラン作成が意識されている。

○改善が必要な点、今後期待される取組等

<p>(総合相談支援業務)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者及びその家族が抱える様々な問題に対処しなければならない。その問題解決には、高齢者以外の担当部署との連携が必要である。高齢者支援課を介してもよいので、密な連携ができる、顔の見える関係をつくってほしい。
<p>(在宅医療・介護連携推進事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別支援も他職種との連携についても積極的に取り組んでおり、今後も継続していただきたい。
<p>(地域包括支援ネットワーク構築等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域包括支援センターの周知について、若年層へどのようなアプローチをすると効果的であるかなどを検討して進めてほしい。 ・家族介護者教室の開催が介護者支援として地域に確実に根づいていくように今後の取組に期待している。
<p>(介護予防事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーション職を地域の介護予防事業の場に派遣する事業である、地域リハビリテーション活動支援事業について、活用しやすいよう市が事業の見直しを行っていくことに合わせて、年間計画を立てて有効に活用していただきたい。